発掘調査今昔《厚木市の古墳時代後期の墓制》中依知遺跡群（なかえち いせきぐん）

中依知遺跡群は、さがみ縦貫道路・厚木秦野道路の建設事業に伴い、発掘調査が実施されてきました。調査では、近世～旧石器時代の遺構や遺物が多数確認されていますが、今回は古墳時代の成果について、現在実施されている第３次調査と過去の第１・２次調査をあわせてご紹介します。

現在：第３次調査（2022 年～現在）

第３次調査では、台地上で古墳時代後期の古墳（円墳）が２基、台地西側の斜面で古墳時代後期の横穴墓が 10 基発見されました。２基の古墳は台地上の西側に偏った位置にあり、横穴墓 10 基は台地西側の斜面の中位に立地しています。

古墳

２基の古墳は、ほぼ南北に並んでいて、南側にある３号墳が墳丘の直径約17mの円墳で、墳丘中央部に長さ約６ｍの横穴式石室があります。北側の１号墳は大部分が調査区域外にありますが、３号墳とほぼ同じ規模と推定されます。

１号墳　全景

３号墳　全景

４号横穴墓　墓前域石積み施設　羨門閉塞除去・開口状況

横穴墓

10基の横穴墓の中には、石積施設を有するものが５基あります。横穴墓の入口部分の周囲に河原石を積み上げているもので、横穴式石室の入口部分と同様の「見映え」を目的に造られていると推測されます。石積施設は丁寧に積み上げられていて、状態の良いものは、高さ３ｍに及ぶものもあります。

横穴墓群　全景

８号横穴墓　墓前域　完掘・羨門閉塞除去状況

過去：第１次調査（2001 ～ 2003 年）、第２次調査（2010 ～ 2011 年）

第１・２次調査の調査範囲内には、群集墳と呼ばれる小規模な古墳を中心に形成された桜樹古墳群と、丘陵斜面に横穴を掘って埋葬する横穴墓で形成される中林横穴墓群の一部が含まれていました。そのうち、桜樹古墳群に属する５基(１～５号墳)については石室全体の調査を行いました。他は調査範囲際にあり、石室の一部や周溝のみを調査しています。

古墳

調査した古墳はすべて円墳と考えられ、墳丘径は14～16m程です。石室はいずれも入口の羨道部と玄室の幅が同規模で、前壁を持たない無袖式の横穴式石室で、玄室から直刀や鉄鏃などの武器類や鉸具や菱形飾金具などの馬具、金銅・鉄・鉛製の耳環と勾玉、切子玉、管玉、棗玉、ガラス玉といった装飾具などが出土しています。また、１号墳の周溝から珍しい把手が付く土師器の壺が発見されました。古墳群は６世末から７世紀前半にかけて造られたと考えられます。

1号墳周溝　壺出土状況　※1

２号墳　全景　※3

２号墳　鉄刀出土状況　※2

横穴墓

丘陵頂部から段丘面に降る傾斜面では４基の横穴墓（中林横穴墓群）が発見され、このうち３基（２～４号墓）は横穴墓全体の調査をしています。いずれも開口部は大形の礫で閉塞されていましたが、前庭部や開口部に石積施設などはありませんでした。玄室床面は小礫が敷かれ、３・４号墓からは複数体の人骨が発見されましたが、遺物は出土していません。古墳群の築造が終わった７世紀中頃以降に、横穴墓群が造られたと推定されます。

中林横穴墓２～４号墓　全景

※１　神奈川県教育委員会所蔵・提供
※２　神奈川県教育委員会所蔵
出典：かながわ考古学財団調査報告 205，2007 年
「中依知遺跡群（宮ノ越・宮ノ前遺跡　桜樹古墳群　中林横穴墓群）」
※３　神奈川県教育委員会提供